図・書・紹・介

・当センター「図書コーナー」にある本を紹介しています。



『わたしを支えるもの すーちゃんの人生』 益田ミリ 幻冬舎

◆すーちゃんが40 歳になった。自分の 人生をしっかり地道 に歩むすーちゃん。 家族のこと、土田さ んとの再会で時に悩 むすーちゃん。しみ

じみとした日常まんが。

が登場する。

『女性活躍に翻弄され る人びと』 奥田祥子 光文社

◆いろいろな生き方を してきた女性を長年に わたって取材し、まと めたルポルタージュ。 最長 15 年にわたり取 冗談じゃない! 材している。正社員、 非正規雇用、また結婚 して仕事観が変わった人など、様々な人物

『自衛隊防災 BOOK2』 マガジンハウス(編 集)自衛隊/防衛省 (協力) マガジンハウス

◆自衛隊防災BOOK の Part 2。 大雨、 地震、火事、強風、 大雪など、日本の災 害に備えるライフ ハックを、分かりや

すいイラストと写真で、誰でもちゃんと覚

【貸出しのお約束】・1人5冊まで・期限:2週間・利用時間:9時~17時

※時間外の返却はセンター入口横のポストをご利用ください

ひとりで 悩まないで… 気軽に ご相談を…



とらいあんぐるん相談室

電話 027-224-5210

●相談日と時間

	月	火	水	木	金	±	日
9:00 ~ 12:00	_	0	0	_	0	_	0
13:00 ~ 16:00	_	0	0	_	0	_	0

女性専用電話相談です。 相談は無料で秘密は厳守します。

・年末年始(12/29~1/3)、祝日、月曜日は休み・月曜日が祝日の場合、火曜日も休み 【相談内容】家庭の問題の他、女性の自立や能力の発揮、性差に 関する悩みなど…。

とらいあんぐるん



●研修室の貸出しを行っています。

詳しくはホームページをで覧になるか、直接お問い合わせください。





- ●お車でお越しの際は、県庁内「県民駐車場」をご利用ください。
- ●休館日:月曜日(月曜日が祝日の場合は直後の平日) 12月29日~1月3日

〒 371 - 0026 群馬県前橋市大手町 1 - 13 - 12 電話 027-224-2211 FAX 027-224-2214 メール sankakuse@pref.gunma.lg.jp



センター HP $\operatorname{QR} \sqsupset - \digamma$

ぐんま男女共同参画センター センター通信 No.56 【発行】 群馬県ぐんま男女共同参画センター【発行日】2019年12月10日

とらいあんぐるん

ぐんま男女共同参画センター通信

2019年12月



〒371-0026 群馬県前橋市大手町 1-13-12

TEL:027-224-2211

FAX: 027-224-2214

メール: sankakuse@pref.gunma.lg.jp

女子高校生 理工系チャレンジ支援セミナー「**リコ・チャレ・ぐんま 2019**」

リコチャレは、女子高生の皆さんが、将来の自分をイメージして理系を進路の1つとして選択(チャレンジ)するこ とを応援するため、県内企業、群馬大学理工学部及び県教育委員会と連携して実施している取り組みです。 今年は、県立沼田女子高校を対象に企業訪問、講義と実験、講演会を行いました。

~第 弾「理工系の職場を見てみよう! 先輩に聞いてみよう!」~

●開催日 8 / 7(水)

場所:藤森工業株式会社昭和事業所

生徒18名を乗せ、バスは一路藤森工業(株)昭和事業所へ

企業訪問スタート

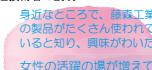








女性技術者の説明





●開催日 10/10(木) 「理工系の講義を受けてみよう 場所:群馬県立沼田女子高校

群馬大学大学院理工学府板橋教授による実験。『渡良瀬の銅を調べよう!』



交流会。女性技術者の



実験スタート

渡良瀬川の土壌から銅を取り出す実験を実施。 さて、草木湖の底からはどのくらいの銅が採れる のか?あなただったら、ビジネスにするか?と板 橋教授からの問いに高校生たちは、実験と頭をフ ルに使っての計算という両方を体験。

∼第3弾「理工系の進路について保護者と考えよう ~理工女子の最前線!」~

∼講義と実験~」~

●開催日 10/10(木) 場所:群馬県立沼田女子高校 保護者と学生に向けて講演。板橋教授。

研究は楽しい 労を惜しまない、とは かくやってみる! うまくいかない時こそ



板橋教授の講義



「リコ・チャレ・ぐんま2019」の参加者 から、「理工学部を卒業した先輩方が世界で活 躍していると聞き、自分もがんばろうと思っ た」、「理工系への印象が変わり、楽しそうだと 思うようになった」、「進路を決める1つの材料 となった」などの意見を多数いただきました。 企業訪問、先輩技術者との交流、大学教授の講 義や実験などを通じて、理工系のイメージが変 わり、選択肢の1つになったでしょうか。